

コード	205020201
記入日	H23.6.1

課コード	118
課名	土木課
課長名	石司 貴英
担当者	濱崎 義高

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	河川維持修繕事業
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 一 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	8
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	3
基本事業コード	20502	基本事業名称	治山・治水対策の推進	目コード	1
事務事業コード	2050202	事務事業名称	河川管理事業費	細目コード	77
関連計画	新上五島町振興計画	法令・条例規則等	河川法		

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1)	新上五島町が管理する河川及び水路	(対象指標1)	普通河川 371本 他水路			
(対象2)	住民	(対象指標2)	23,210人 (H22.4.1現在)			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	河川を維持管理することで、住民生活へ支障がないようにする。 →河川等修繕数 11箇所	*****	*****	*****	修繕数11箇所+計画河川等修繕数11箇所	*****
		①	河川等修繕数	11箇所	100%	平成22年度
		(達成率分析)	計画どおり達成できた。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率 (上段：全体、下段：評価年度)				
	河川流域の周辺住民が浸水被害等から安心して生活できる環境を確保するために適正な維持管理を実施し、安全性を確保する。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	河川管理日数365日+安全管理日数	*****
		①	365日	100%	管理すべき日数365日	平成22年度
		(達成率分析)	維持修繕を行ったことで、年間を通して安全を確保することができた。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 本	44	36	26	10	10					
	②										
成果指標	① 日	365	365	365	365	365					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	45,107	44,780	34,546	10,561	10,234					
直接事業費 A	千円	17,107	16,780	13,546	3,561	3,234					
人件費 B	千円	28,000	28,000	21,000	7,000	7,000					
内訳	従事職員数	人	4.0	4.0	3.0	1.0	1.0				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	45,107	44,780	34,546	10,561	10,234					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	河川、水路の管理者である町が行うべきものである。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	河川、水路の機能及び安全性の確保については、普遍的なものであり町が行う必要がある。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	住民生活の安全性・利便性を向上させるための事業であり適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	事業の途中であるが、計画どおり事業は推進されている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	ほぼ計画どおり事業が進捗しているので特別向上させる必要はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	道路の安全性及び利便性の確保ができない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	単一の事業であり、他の事業との整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており削減できない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	現在の人員を削減することは事業の推進上できない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	施設の管理者である町が行うべきもので受益者負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	住民の利便性及び道路の安全性を向上させるための事業であり有効である。
		効率性	最小の経費で最大の効果をあげる設計となっており、今のところ経費を削減することはできない。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	災害時の浸水被害等防止・生活環境保持のため適正に維持管理に努めること。補修等は計画的に実施すること。
		効率性	計画的な維持補修を図ることで、効率的な経費の執行に努めること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。